

表紙、編集規定

| | |
|-----|---|
| 雑誌名 | 関西大学心理学研究 |
| 巻 | 13 |
| 発行年 | 2022-03 |
| URL | http://hdl.handle.net/10112/00026163 |

Kansai University Psychological Research

| | |
|---|----|
| Masashi KUSHIZAKI Sensory Processing Sensitivity and Visual Imagery Style | 1 |
| Jiaqi LI Masashi KUSHIZAKI The Relationship between Sensory Processing Sensitivity and School Adjustment in China..... | 9 |
| Honoka MITSUISHI Akira IKEMI What happens in Kanga Focusing: An existential analysis of a session | 17 |
| Mayu ICHIZAKI Rikuko SEKIGUCHI Perspectives and future approaches on research of false memory | 29 |
| XI CHEN Jun MORIYA Takafumi WAKITA Gender Differences of Gender Dysphoria Attitudes among College Students in Japan and China | 55 |
| XI CHEN Jun MORIYA Takafumi WAKITA Differences in image between FTM and MTF as gender dysphoria —Semi-structured interviews with non-participants— | 67 |
| Rikuko SEKIGUCHI Zhuoliang Wang Development of the Japanese version of the Super recognizer questionnaire | 83 |
| Summaries of Doctoral Dissertations and Master's thesis | 95 |

Graduate School of Psychology, Kansai University

関西大学心理学研究

第13号 2022年3月

| | |
|--|----|
| 串崎真志 感覚処理感受性と視覚的イメージスタイル..... | 1 |
| 李 佳奇・串崎真志 中国における感覚処理感受性と学校適応感の関係..... | 9 |
| 光石歩乃佳・池見 陽 「観我フォーカシング」では何が起こっているのか ——セッション・レポートからの考察—— | 17 |
| 壺崎真由・関口理久子 虚偽記憶研究の現状と課題..... | 29 |
| 陳 曦・守谷 順・脇田貴文 日中大学生の性別違和に対する態度の違いと性差の検討..... | 55 |
| 陳 曦・守谷 順・脇田貴文 性別違和であるFTMとMTFに対するイメージの違い ——非当事者に対する半構造化インタビュー調査から—— | 67 |
| 関口理久子・王 卓良 超顔認識尺度日本語版の開発..... | 83 |
| 博士論文・修士論文抄録集..... | 95 |

関西大学大学院 心理学研究科

編集委員会

脇田貴文* 申崎真志 北村由美 中田行重 (*編集委員長)

編集規程

1. 本誌は、関西大学心理学研究科の機関誌として、年1回発行する。
2. 本誌の編集、掲載可否や掲載区分の決定は、関西大学心理学研究科内にある編集委員会の責任のもとに行われる。
3. 本誌は、原則として関西大学心理学研究科を構成する機関（文学部心理学専修、社会学部心理学専攻、臨床心理専門職大学院）に所属する教員ならびに教員と連名の研究者の論文、および本研究科の修士論文と博士論文の抄録の掲載にあてる。ただし、本誌の編集委員会が認める場合はこの限りでない。
4. 論文の第一著者となるのは、原則として前記の教員、大学院生、および研究生とする。ただし、本誌の編集委員会が認める場合はこの限りでない。
5. 論文は未公開のものに限る。ただし、学会や研究会等での発表（口頭、ポスター、講演等）は除く。
6. 本誌は、国内外の心理学関連学会の研究倫理および出版倫理を遵守した研究を掲載する。
7. 論文は、発行に支障のない範囲内であれば、字数は問わない。
8. 論文の構成および表記は、日本心理学会編「執筆・投稿の手引き2015改訂版」に準拠したものとする。この手引きで規定されていない事項、および未刊行物の引用については、Publication Manual of the American Psychological Association (6th Ed.)（日本語版は『APA論文作成マニュアル第2版』）に準じる。ただし、投稿には指定のテンプレートを用い、執筆者の役割分担、他の業績との重複の有無、助成金・利益相反の有無などを明記する。
9. 論文の印刷に関し、特に費用を要するものは執筆者の負担とする。
10. 執筆者（第一著者）に対しては、抜刷20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
11. 本誌に掲載された論文の著作権は関西大学心理学研究科に帰属する。関西大学心理学研究科は電子掲載の権利を有する。ただし、内容についての責任は著者が負う。

(2017年6月21日改訂)